

令和3年度 富士宮市立富士根南小学校グランドデザイン

■ 全ての教育活動の根幹:「子供一人一人は、かけがえのない存在である」

■ 目指す子供像:「富士山を心に夢をもって生きる子」

富士根南中:こころざしをもち学び合う輝南の生徒

基本理念

自主・自立
協働・共生

学校教育目標

「夢を持って、自ら考え学ぶ子」

富士根南小学校の子供たちに育てたい11の資質・能力

生きて働く知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
① 物事の本質を深く探り、理解する力	③ 情報を活用する力（「書く力」も含む）	⑦ 自分事として捉える力
② 生活や既習事項と結び付け、転用可能な知識・技能とする力（汎用力）	④ 自己決定・自己選択する力	⑧ 自己統制してやり抜く力
	⑤ 新たな意味や価値を見出し形づくる力	⑨ 他者を認め、思いやる態度
	⑥ コミュニケーション力	⑩ 仲間と協働し、よりよく生きる態度
⑪ 自己を振り返る力・自己調整する力（メタ認知力）		

これから求められる力

- OECD 学びの羅針盤
- * 社会的・文化的・技術的ツールを相互作用的に活用する力 ②③⑤
- * 多様な社会・価値観に係るグループの人間関係の形成能力 ⑥⑨⑩
- * 自律的に行動する能力 ④⑦⑧
- * 新たな価値を創造する力 ②⑤
- * 対立やジレンマを克服する力 ⑤⑥⑨
- * 責任ある行動をとる力 ④⑦⑧⑩
- ポストコロナの学校（中教審初等中等教育分科会）
- * 自律した学習者 ①②⑤⑧⑩

本校の強みとよさ

- 子供 元気で明るく素直
- 集団での規律がある決めたことは真面目にやる
- 仲間のよいところを認めることができる
- 教職員 子供主体の授業づくりができつつある
- 組織的・学校運営ができる
- 保護者 愛育会の組織力がある協力態勢がある
- 地域 学校愛と協力態勢がある
- 学校応援団組織がある

課題解決への具体策と改善方針・重点取組

- 学年カリキュラム・マネジメント（学習指導・生徒指導）を実施したり、主任会、6部会の協議内容を伝達する「**学年部会**」の時間を確保する。（毎週金曜日・月2回は6カットして実施）
- ステージ制による課題発見、協働的課題解決の営みを実現し、よりよく判断し行動する子供を育成する。短いスパンでのPDCAサイクルを機能させ、自己調整力の育成を図る。
- 生活目標を廃止し、各ステージのテーマや各向上部の目指す姿を参考に、**学級・学年で目標を設定し、課題発見・解決型の取組**を実現する。（学級会の時間の確保も確実にする）
- 年間1回の全体授業研修を維持しつつ、2学年ごとのグループによる深みのある授業実践研修を実施する。仮説を整理し、ポイントを絞って仮説検証型の授業研究を実施する。
- 学校HPの内容、**更新手順を含む情報発信の方法を刷新**する。適時性や活動趣旨を明確に協働できるような発信する。

Action

Check

Plan

Do

よりよく

主な課題

- 学年カリキュラム・マネジメントの時間確保が十分でない。また、主任会、6部会での協議事項や確認事項を各学年部の職員に伝える時間が十分でない。
- 生徒指導や特別支援対象児童の対応など、各学級の諸課題を学年部で共有し、対応策を練る時間が不十分。また、学校全体での組織的な対応を実現する体制が十分でない。
- ステージ制で取り組むことのねらいが子供、教職員共に理解が十分でない。また、生活目標とステージ制の目標が2重に存在し、どっちつかずで取組が難しい。
- コロナ禍で全教職員による研修ができない。VTR等を使った研修も技術的なことに加え、教室の空気が掴みず、授業後の協議が深まらず、仮説検証が出来なかった。
- 学校から、地域や保護者への情報発信、提供が十分でない。コロナ禍であり、直接、子供の様子を見ることが出来ずに不安感を持つ保護者も見られる。

学校経営目標の評価の観点（趣旨）

	1学期	2学期	目標値
・ 学び合う授業は楽しく、内容がよく分かる。（市共通）			95%
* 授業に家庭学習（予習・復習・自主勉強）が生かされている。			80%
* 単元（授業）のゴールに向けて、自分の学びを調整できる。			80%
・ 「あたかな聴き方」ができる。			90%
・ 「やさしい話し方」ができる。			85%
* 自分で考え、よりよく判断し行動することができる。			90%
* 自分の行動を振り返り、次に何をすべきか自分で分かっている。			90%
・ （学校生活の中に）自分で考え、進んで取り組める活動がある。			90%
・ 人に指示されることなく自ら行動できる。			83%
・ じかん、きれい、ことばを意識して生活している。			90%
・ 新しい生活様式など、自分の健康を考えて生活している。			93%
・ QUIにおいて学級満足群60%以上、不満足群20%以下			*

短いスパンでのPDCA



教育支援部

- 特別支援教育・就学支援の違いを明確にした教育支援の質の向上
- 合理的配慮の組織的な取組によるインクルーシブ教育システムの構築
- SC・SSW、関係機関等と連携した教育相談、拡大ケース会議の充実
- 自己調整力の育成を図る「あゆみ」の在り方の研究

環境支援部

- 豊かな学びを支える教育環境の一層の整備（GIGAスクール構想の推進）
- 心の安らぎを生む学校施設のリニューアル（コミュニティールーム・保健室・掲示板）
- 大規模校のよさを活かした業務改善・働き方改革の推進
- 教育効果を最大限に引き出す適正な予算執行の実現

社会に開かれた教育課程の実現

地域との連携（横の連携）	保護者・家庭との協働	幼保・中・高との連携（縦の接続）
□ 学校応援団（PTA+C）との協働 □ 地域的人的教育資源の積極的な活用 □ 青少年健全育成協議会との連携 □ 登下校の安全確保（地域見守り隊との協働）	□ 適時・適切な情報発信による保護者との協働体制の構築 □ 親子読書の日・ファミリースポーツデーの実施 □ SC・SSW、関係機関等と連携した教育相談、拡大ケース会議の充実 □ 愛育会の活動支援	□ 幼保・小交流事業（ようこそ1年生）の実施 □ 小中合同研修会の実施 □ キャリア教育の充実 □ 中学校体験入学、ようこそ先輩の実施

